

第5回首都圏広域地方計画改定に関する有識者懇談会 議事概要（案）

日 時：平成27年7月29日（月） 10:00～12:00
場 所：TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター ホール6A
出席者：出席者名簿のとおり
議 事：（1）首都圏広域地方計画中間整理（案）について
（2）その他

主な発言内容

■中間整理、プロジェクトについて

委員

- ・日本全体で健康づくりに努めようということで7月10日に日本健康会議がスタートした。神奈川県の未病については例えばということを書くにしても、首都圏の計画についてはこの会議の考え方とある程度の整合性は必要ではないかと考える。
- ・29ページ31行目③介護関連施設の統合による運営の効率化についてはどういう意味か教えて頂きたい。介護関連施設はほとんどが民間なのでどうやって統合するのか疑問である。これについては、今すぐ解決策は出ないかもしれないので問題の指摘だけとしておく。

委員

- ・地球温暖化に対するアクションプログラムが制定されていないのは先進国では日本だけであり、そのことを前提とすべきではないか。
- ・計画の内容が多岐にわたるが、誰が全体をチェックし、進捗を管理するのか。
- ・第3章に上質、高効率、親切、繊細さとあるが、先取性が抜けているのではないか。
- ・地籍調査は行政だけではなく、政治でやってもらうべきことではないか。

委員

- ・第1章から第5章までつながりが出てきたが、第4章、第5章はまだ寄せ集めで、今後整理が必要。
- ・高潮がキーワードとして見つけられなかったため、漏れているのであれば、充実させて欲しい。

座長

- ・交通政策審議会気象分科会の答申が今日まとまるが、新たなステージの災害については、広域計画に反映の余地があるのではないか。

委員

- ・大規模災害時の瓦礫の保管場所を考えておく必要があるのではないか。

委員

- ・ユニバーサルな避難誘導について、都市部で確立されている事例はあるか。これが首都圏で出来れば、世界で初の取組になる。
- ・宿泊を伴う国内観光旅行は2005年がピーク。2014年も回復していない。移動したり、出かけたりというモチベーションは上がっている状況ではなく、リアルに見聞きすること

の重要性を計画に記載してほしい。

座長

- ・旅の重要性は、全国計画では書かれていない。2章あたりに書いてはどうか。

委員

- ・本文 17 ページに ICT やクリエイティブ分野での国際的地位の低迷とあるが、アクションが記載されていない。例えば 22 ページに明記してはどうか。
- ・本文 21 ページのネット接続環境と位置情報の精度向上に、屋内外を問わずとあるが、所有者の異なる地図情報を組み合わせる必要があるため、「シームレス」という文言も入れて欲しい。
- ・本文 22 ページに、アジア諸国に対してアドバンテージのある先端分野が挙げられているが、アドバンテージがある客観的な根拠を示すべき。
- ・ロボット活用は重要であり、本文 29 ページにある高齢者だけでなく障害者への活用も書けないか。
- ・寛容性という言葉は、日本は寛容ではないと言っていることになるため、使用しない方が良い。
- ・若者の活用と、高齢者や障害者の活用を並列に記載することには違和感がある。

座長

- ・骨子の 5 ページの首都圏新構造の構築イメージで、地方空港を広域首都圏の空港として位置付けてはどうか。また、福島方向の黄色い矢印が中通りだけでなく、浜通りも含まれるように線を太くするなど、見せ方を工夫したほうがよい。
- ・スーパー・メガリージョンについては、首都圏がリニアの 3 駅を抱えることとなる。神奈川県では圏央道と併せて、地域の軸形成が期待されている中で、新構造に組み込んでもいいのではないか。

委員

- ・堤防の中の光ファイバーや緊急地震速報、ひまわりの解像度等の防災に対する ICT 活用は日本の成長分野であり、記載が必要ではないか。
- ・関東には 3~4 万人の国際会議、国際見本市ができる施設が必要ではないか。

委員

- ・骨子 3 ページの成長・発展政略の図だが、成長、防災、環境が従来は並列だったが、今回のイメージを別の表現にしたほうが良い。例えば、立体的に表現してはどうか。
- ・コアプログラムはすぐできることと、長期的なものとの仕分け、到達点を整理すると良い。
- ・ICTなどは、府省連携が必要ではないか。SIPで検討している部分でもあるが、長くいろいろな人が活用できるようにすると良い。

委員

- ・リアルな移動の重要性については、PJとしてもやったらいいのではないか。バーチャルな体験も進化してきている中で、リアルに移動することの重要性を書きこんでほしい。
- ・コンパクト+ネットワークや農業など、首都圏構造自体もコンテンツにしたものが大観光時代なのではないか。

委員

- ・ICTの観点からは、各プロジェクトにおいて共通点が多い。情報システムインフラを構築し、いかに共通化するかが鍵。

座長

- ・特定離島は重要であるが、まずは普通の離島に目を向けてもらってはどうか。離島は未知で、行きづらく、それが魅力となる。
- ・PJのA01は、データを整備すること、はっきりさせることがインフラとなる。
- ・PJの名前はインパクトがあり、大きな話であること、何のためにやるのかという目的を使うなど、よく考えてはどうか。
- ・特にPJについて、意見を欠席委員からもしっかりいただくよう発信して欲しい。

関東総合通信局

- ・基盤の上で、どうサービスを提供するのかを考えていきたい。リニア新幹線にはミリ波など、電波の活用も考えられる。

関東地方整備局

- ・災害廃棄物は重要である。JAPICでもやっているように、産業界にも協力頂き、連携してやっていきたい。
- ・防災ICTや、鉄道の定時性、水の安全性などは、海外から見るとすごい技術であり、それをどう活かせるかを考えたい。観光・国土教育については、現場、現物、現人に触れるという三現主義の姿勢が重要である。
- ・ICTは、インフラとも関連づけて標準化、規格化していくことが考えられる。江戸時代から紐解き、首都圏発展の基礎を築いてきたインフラにも触れたい。

■その他 スケジュールについて

室長

- ・次回有識者懇談会は9月を予定。
- ・PJについては、委員の先生方に個別に意見を伺い、家田座長に報告した上で、中間整理の案としたい。その後は市町村の計画提案を経て計画原案となり、再度懇談会にお諮りし、大臣決定となる。

以 上